

溺れたいと願うだけ。

例え話が大好きなの。

刈り取った恋の芽に、火をつけた。

赤く燃える、私の情緒を糧に。

労力の要らない願望だけを撒き散らして、燃え殻を踏み潰す。

誰にも救われなかった愛情をゴミ箱に捨てて、私は私に戻ってゆく。軽やかな指先が、興味の無いバンドの曲で埋め尽くされたプレイリストを再生した。